

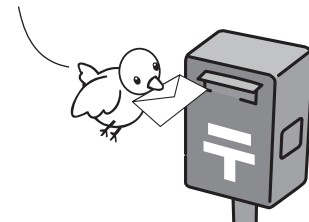
あなたの声をお聞かせください。身近な出来事や町に関する要望・意見など何でも結構です。投稿いただいた中から広報はがへ掲載させていただきます。その際の添削については、ご了承ください。

Blank lines for writing responses.

イラストも募集しています。広報はがのカットとして掲載させていただきますので、濃くはつきりとお書きください。

Blank box for drawing illustrations.

あなたの声を聞かせてね！  
お便り待ってます！



●あたたかい町に

高松イフさん  
明るく町じやう、住みよい町じやうのわが町、芳賀町。福祉もその中の一つです。特にそれらに参与している人には、専門的知識を生かして私たちが住民に接してほしいと思います。やさしい言葉、あたたかい態度、いたわりの心、思いやりの心がたくさんある人を癒してくれます。

●感動の映画をぜひ芳賀町で

金田价正さん  
先に機会があり、映画「いのちの山河 日本の青空II」を鑑賞しました。

内容は、岩手県の旧沢内村で豪雪・多病・貧困という問題を抱えながら、乳幼児と高齢者の医療費無料化を実現させ、全国最悪だった乳幼児死亡率をゼロに導いた村長と村民たちの奮闘を描いたものです。3月12日の下野新聞に、那須塩

原市で有志による上映が企画されていると記事がありました。実に感動的な映画ですので、町として上映実現に努力されるようお願いいたします。そうであれば、グループや団体などが上映する場合に、町民会館の利用料の割り引きなどを考えて、社会活動に協力していただければと思います。

●雪の日が多かったですね

トノサメさん  
今年は何年になく雪が多く降りました。昭和30年代、私が子どものころに雪の中を夢中で遊んだことを、ふと思い出します。そのころは今よりもよく雪が降り、宿題なんてそこのけでそり遊びに明け暮れました。当時は学習雑誌にその作り方が載っていて、私はそれを参考に「リンゴの木箱に割り竹を付けた手作りのそりを自分で作りました。そしてちよつと良い土手を探し、日が暮れるまで滑っていました。

そり遊びなどは学校では習いませんが、脳裏に焼きついて今でも忘れられないから不思議です。反面、学校で習った事はすぐ忘れてしまつての。私が残念に思うことは、最近手作りのそりで遊んでいる

子どもたちを見かけなくなつたことです。そり遊びは雪合戦もやらないのは、子どもたちの心貧しくなつていっているのではないだろうか。今の子どもたちが大人になつたときのことを考える心配になります。

●生涯学習まつい

まつい実行委員一員さん  
3月6日の生涯学習まついは「観る・聞く・話す・踊る・奏でる・食べる」などがあり、良いお祭りでした。芳賀東小学校合唱団の代表者のあいさつは、芳賀町を愛する心が伝わってまいりました。

そんな素晴らしい子を育てることは大人の責任です。その大人が成長するのに、私は生涯学習課の役割が大きいと思います。また、皆さんも「町を愛し町を育てる」気持ちを持ちましょう。



▲鈴木モコさん (西高橋)

町長室からー豊田征夫



平成22年度予算案が町執行部内での編成議論を経て決定し、3月2日から12日までの第2回議会定例会で審議・議決されました。

一般会計が70億2千万円、特別会計が39億4250万円の合計109億6250万円の膨大な予算です(詳細は4/7Pの平成22年度予算ををご覧ください)。予算決定は、町の1年の出発点であり大きな節目です。

町が事業を行うには、その狙い、目標を総体として組織的にどう保持し、どのように達成していくのか、施策レベルと事務事業レベルでの成果目標を見定めることです。

予算は、その目標達成のために1年間の仕事の段取りを決め、年間を通じて日々実行していく羅針盤となるものです。4月以降、その使い方、事業の進め方などにさまざまな工夫を加え、効果的な成果を出すことです。厳しい財政状況が現実な

中、予算額が減額となった事業でも、これまでのやり方を見直し工夫を加え、改善することによって成果をさらに上げることが必要です。真剣にその可能性を追求し、努力しなければならぬ時代です。

そもそも予算化はスタートに過ぎません。そのスタートの議論と決定は不可欠で重要ですが、実際に予算が執行されて成果が出てこそ、意味があります。

町執行部内はもちろん、サービスの受け手である町民の皆さまとその代表である議会は、金額の多寡中心の思考にとられすぎではいけません。予算の1年間にわたる執行とその結果について、それぞれ自問自答と共同共答を重ね、さらに皆でいかに自分たちの地域を創っていくか、三つどもえの協同協答が必要で

町民の皆さまには、今後とも、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

※自問自答…担当職員が自ら問題を認識し、自ら答えを考えること。共同共答…課内で考え、さらにトップとともに互いに問題を共有し、互いに答えを考えること。協同協答…評価表を公表して、議会・住民とともに互いに問題を共有し、互いに答えを考えること。「共同共答」「協同協答」は、日本能率協会コンサルティング梅田次郎氏の造語です。